
愛す人と花火(結)

ブータロー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛す人と花火（結）

【Nコード】

N5728C

【作者名】

ブーロー

【あらすじ】

白鳥警部と佐藤刑事のその後の行く先は？

ここは、某町。

警視庁のあつてコナン達が在宅する街。

この大きな街にとある一人の女刑事が住んでいる。

誰からも信頼されていて活発な女性^{ひと}。

そして、警視庁でも人気であり性格も優しい。

そんな珍しい人種である佐藤美和子はある一つのマンションに留まっている。

いつもなら警視庁で仕事を行っていたものの今日は非番で休んでいた。

そんな彼女の一日ももう過ぎていく。

「白鳥君？ いったいどうしたの？」

なんの気なしに右手を握りしめてくる白鳥警部にたいして不思議に思う。

「今日は美和子さんのために花火に連れてったのですよ」

「・・・！？」

白鳥警部の言った事がわからなくて首をかしげる。

白鳥警部は少し間をあけてから口を開ける。

「美和子さん、僕はあなたの事が・・・」

「あ・・・？」

冷静に喋る白鳥警部の言葉をさえぎる。

佐藤刑事は思わず握りしめられていない左手を前に出す。

「ちよつと・・・蚊に刺されちゃったじゃないの・・・」
だした左手を見ながらつぶやく。その手の薬指にはまっている結婚指輪が一瞬光る。その光に白鳥警部はすぐに反応する。

（結婚指輪！？）

結婚指輪を見ながら何かを考える。白鳥警部の思考は働き始める。

（そういえば・・・今日は美和子さんの非番の日。もしかしたらそれをいい事に高木君が美和子さんの家に訪問して何かやらかしたかも・・・）

いろいろと考えている途中に頭にふと高木刑事が思い浮かぶ。
結論まで考えようといういろいろと知恵を使う。

（ひょっとしたら・・・高木君は美和子さんと結婚の約束をしたのでは）

白鳥警部は頭をフルに回転させていろいろと考えて込む。確信としたという表情にする。

「どうしたの？白鳥君・・・」

佐藤刑事は疑問に思い質問する。

「いや何でも無いんです。もう明日も仕事ですから帰りましょう・・・」

相変わらずの冷静さを見せて車のエンジンをかける。

「僕が送ってあげますよ・・・」と付け加えて置いて。

（明日彼に質問しなければいけませんね。もちろん張り込んで吐かせないといけませんね）

きれいに光る花火を見ながら家路へ戻ろうと向かう。その間白鳥警部は新たな思考を働かせる。

佐藤刑事を家に帰して帰宅に戻ってからすぐに白鳥警部は紙と筆を用意する。

（それにしても高木君・・・僕の目を盗んで結婚指輪を渡していたんですね。明日は絶対に彼を張り込みしますからね）
そんな事を考えながら筆を動かす。

「うまく書けましたね」

書いた文字を自画自賛して壁に貼りつける。

その紙の上の黒い文字は『妥当！！高木君』と書かれていた。

（後書き）

ブー太郎です

他の作者さんががんばっているので私も一気に起承転結書き上げてしまいました（　　）

最後のおちは白鳥サンはワタルサンにたいしてのライバル意識を燃やしていたと思います（＾|＾；）

だって打倒！高木君でひそかに書いてそうなきがするんですヨ（＾|＾）v

その次の日に白鳥サンが警視庁のみんなに指輪の事を話したと思います

ちょうどあの指輪の事件も夏頃の話ですし・・・

では他にもいつか一人称小説で構成を考えておきます
ではここで起承転結は完結です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5728c/>

愛す人と花火(結)

2010年11月1日10時17分発行